

生き続けるということ

～名物女将が語る

東日本大震災から未来のまちづくり



◆2018年1月19日(金)

◆開演：14：00（開場13：30）

◆場所：HITOMIホール

【主催】岩手県北バス【協力】岩手県・いわて復興ツーリズム推進協議会・(株)メニコン

入場無料
(先着100名様)

==講演内容==

- 津波からの生存～地域住民の避難場所として機能させた旅館での生き様
- 震災から7年目にして思うこと
- 被災地での復興と、ラグビーワールドカップ誘致への取り組み

*本講演会は、岩手県事業平成29年度岩手県復興ツーリズム推進事業を岩手県北バスが受託し、(株)メニコン・いわて復興ツーリズム推進協議会・岩手県北バスが共同で企画・実施運営しております。



講演者：岩崎昭子（宝来館女将）

1956年、釜石市生まれ。24歳から、旅館「宝来館」の女将を務める。東日本大震災で宝来館が被災し、自身も津波にのまれながらも命からがら逃れ、その後旅館を再建。地域の方と協力して食や海辺の整備活動、地域再生のため、ラグビーW杯招致に尽力するなど、各地で様々な活動を実施している。
*宝来館ホームページ⇒<https://houraikan.jp/>（検索：宝来館）

岩手県釜石市にある宝来館の女将 岩崎さんは、東日本大震災で津波に飲み込まれながらも九死に一生を得ました。その体験から津波避難の教訓を伝え、日本中、世界中の人とつながりながら旅館の再建、地域社会の再生のために取り組んでおられます。宝来館のある岩手県釜石市といえば、かつて「北の鉄人」と呼ばれた新日鉄釜石ラグビー部を育んだ鉄とラグビーの街。震災後、絶望のどん底にいたときW杯日本開催の話を知ります。「海水浴場を中心に観光で栄えた生まれ育った根浜（ねばま）地区を、もう一度観光で人が集まり賑わう場所にしたい。W杯がそのきっかけになれば」という強い思いから、岩崎さんはW杯招致に尽力します。そして、釜石が2019年のラグビーW杯の開催地として決まりました。「人は再生する力を持つ。地域でできることを模索し、まずは動いてみる、やってみる。」とおっしゃる岩崎さんから、釜石再生の想いと活動についてお話しいただきます。

【申込方法】 先着100名様

- ①メニコン ANNEX ウェブサイトから申込⇒<http://www.annex.menicon.co.jp/> ⇒
 - ②ハガキにて申込（460-0006 名古屋市中区葵三丁目 21-19 メニコン ANNEX 宛）
 - ③FAXにて申込 Fax：052-935-0120
- ※お名前/ご住所/電話番号/参加人数をご記入の上お申込みください。



【問合せ】

Tel:052-935-0918（ANNEX 事務局 10時～18時） / Email: info@menicon-net.co.jp

◆併催◆ ギャラリーMenio <入場無料>

『三陸みやこ物産展』 1月19日(金)11時～16時

※協力：宮古観光文化交流協会

写真展『変わりゆく故郷
～東日本大震災から7年を迎える岩手県三陸地域～』
1月12日(金)～2月8日(木) 10時～18時

メニコン ANNEX ウェブサイト <http://www.annex.menicon.co.jp/>



[場所]

メニコン ANNEX
(メニコン本社北館5階)
中区葵三丁目21-19
地下鉄千種駅5番出口
徒歩4分